

人権だより

2021. 11

大洲高校人権委員会

11月12日実施のホームルーム活動では、1年生は「差別の現実に学ぶ（身の回りの差別）」をテーマに学習をしました。2年生は「人権の歴史」水平社宣言から学び、3年生は「同和問題の解決を目指して」と題して、結婚差別の解消に向けて学びました。人権委員の感想を一部紹介します。



1-1

差別意識を変えようと働きかけてきた人々がいたことを忘れず、その恩を次の世代につなげられるように伝えることが大切だと思う。



1-2

コロナウイルスに関係する差別について皆で考え、話し合うことができた。協力して発表したり板書できた。次回も頑張っていきたい。



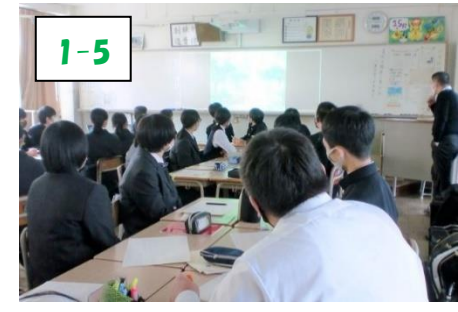
1-3

自分が差別に直面した時にどう行動するか、具体的に場面を想像し考えた。人を思いやる心を学ぶことができた。



1-4

差別も思い込みからだと思う。自分の思い込みを信じすぎず、相手の立場に立ってみることが大切だと思った。



1-5

ハンセン病は感染力の弱い病気のはずなのに、誤った情報で長い間隔離されていたのはとてもおかしなことだと思った。



2-1

松浪彦四郎さんの水平社運動の真髓について考えた。これからも、人権の歴史を学び、差別のない世の中にするためにどうすればいいか考えたい。



2-2

紙芝居を使って水平社が結成されるまでを学んだ。水平社宣言を自分たちの言葉に訳し、水平社宣言を身近なものにできた。



2-3

差別意識というのは周囲から影響されるので、自分が正しいと思ったことを貫き、周りの人にもいい影響を及ぼせる人になりたいと強く思った。



2-4

水平社運動は、差別をなくす第一歩になったのだと強く感じた。差別についての正しい知識を持って、差別解消につなげていきたい。



3-1

差別について知り、周りに発信していける人になりたい。今まで学んだことをこれからも忘れないようにしていきたい。



3-2

結婚差別を乗り越えるためにどうすべきかを考え、解消に向けての意識を向上させることができた。学んだことを社会に出てからも生かしていきたい。



3-3

一番大切な事は、正しい知識を身に付けて、相手の立場に立って物事を考えていくことだと思う。みんなが自分のこととして考えて活動できた。



3-4

自分が意見をしづらい人が差別的な考えを持っているかもしれない。もしそうだったとしても見過ごさないことで差別は減っていくと思う。



3-5

差別をなくしていくために一人一人が正しく人権意識を持って、差別を決して許さないという姿勢を持つべきだと思った。

映画「あん」を観ました

○ 映画会の充実度

満足 (74.7%) やや満足 (22.8%) やや不満 (1.8%) 不満 (0.7%)

人権・同和教育映画会での皆さんの感想の中から一部を紹介します。

映画から考えたこと、学んだことを振り返ってみてください。

- 徳江さんがお店に立った最後の日に、どんな気持ちで家まで帰ったのかを考えると胸が締め付けられるようになりました。
 - ▶ 私の地域にも隔離されていた方がいて、その方は幼いころに療養所へ行って、帰ってこられたのはおばあちゃんになった頃だったそうです。こういう話を聞いた時とても悲しくなりました。
 - 徳江さんが「楽しかったよ」と何度もつぶやくところ…過去にどれ程辛く、悲しい生活を送っていたかがよくわかりました。
 - ◆ 徳江さんは、千太郎やワカナたちには鳥のように自由に羽ばたいて行ってほしいと願ったのだらうと思った。
 - 徳江さんのような自然の声や物の声が聞こえる人になりたいです。日常生活でも聞こえてくる気がします。バラバラになったトイレのスリッパの声、折れてしまった花の声など……
 - 偏見の目に何度も日常を奪われ、希望を失われ続ける人生だとしても、それでも人間は生きる意味があると、優しく寄り添ってくれる映画だなと思った。
 - △ 伝える人と受け継ぐ人がいる。…ハンセン病も今後には伝えていかないといけないと思う。
 - ◇ 僕は正直、人と別れるのがとても怖いです。…人とのつながりを大切に、悔いのないように生きていこうと思いました。
 - 「私たちはこの世を見るために聞くために生まれてきた。だから何者かになれなくても私たちはそれだけで生きる意味があるのよ」と言っていた。そんな言葉を聞いて自分は涙が出ていました。
 - ▲ 知らない人が一番危ないと思います。だから自分ももっと学ぼうと思うし、知っていることを人に伝えていきたいと思います。
 - どう焼きのあんをキーワードにしているが、人は見た目じゃない、中身の心が大事なのだと伝えたかったのだと感じた。
 - ……大島青松園を訪問しました。…もう帰るところがなく、療養所で障害を終える人が多いのだという話も聞きました。
 - ▽ 自分自身も噂や真偽が確かでない情報に流されて意思を決定している場面があるのではないかとも思いました。自分の中の差別意識と向き合うきっかけになりました。

ハンセン病問題を考える

患者を一生隔離する政策をとってただ

親、兄弟姉妹とも暮らせず、死んでも故郷にかえれない

患者を撲滅しようとしたように思ってしまう

特効薬もあって、みんなとくに完治してても、隔離は続いたよね

「らい予防法」廃止まで放置されたんだね

でも、絶対隔離政策に、たった一人で生涯反対し続けた医師がいたのよ

うん。小笠原登 医師

その人すごくカッコイ、調べてみたくなった

え〜と、人権のことをみんなと考えている自分がなんか好きだ

ハンセン病に対する偏見や差別をなくす第一歩は、ハンセン病について正しい知識を持つことです。